

タイトル: 2021年度 教育セミナー (第17回)  
日時: 2021年9月16日(木)~19日(日)  
オンライン開催

片居木周平 (東京外国語大学大学院博士前期課程1年)

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今年の中東イスラーム教育セミナーも引き続きオンライン開催となりましたが、運営に当たってくださったAA研の先生、スタッフの皆様のご尽力により、全日程を恙なく終了させることができました。誠にありがとうございました。私は中東のイラクや地域研究に関わるテーマを専攻していることもあり、これに類似した方々の発表を伺うことが基本でありました。しかし、本セミナーを受講し、今後の研究活動の糧となる大きな知見をいくつか得ることができました。

1つ目は、従来自らが身を置いてきた「中東・イスラーム」の括りから一步踏み出し、あらゆる学問領域や地域に関する発表、講義などを集中的に伺うことができた、という点です。とある地域のとあるディシプリンに限定して勉強や研究を進めてきたこともあって、その他の学術領域や大学院生との横断的な関わり合いがさほど充実しておりませんでした。しかし、本セミナーでは歴史学、ナショナリズム研究、イスラーム金融など多種多様な切り口から、また地域で言えば東南アジア、中央アジア、ヨーロッパなど、私自身が普段では決して接することのできない豊富な研究事例を聞くことができました。自らの殻にのみ閉じこもることなく、他大学院の学生との繋がりを有することで、多角的な視座を養うことができる有意義な集中講義でありました。

2つ目は、自分自身が勉強対象としている学術領域について再考する契機となった点です。論文や発表を批判的な視線で見聞きすることは、研究生活を送る中で重要な心構えではありますが、今まで足がかりにしてきた学術分野に対して安易な信頼を置くのではなく、より充実した体系的な研究のために、何についての批判的観点を有するべきなのかを気付かされました。特にそれは専門分野の先生方、そして意欲ある大学院生の質疑応答、発表の形式などから多くの着想を得ることができました。ここで獲得した知見を今後の研究生活に反映させていただきたく存じます。

最後に、私自身の心残りとして、今回のセミナーで発表を準備できなかったことが何よりも悔やまれることです。しかし、エネルギーに溢れる同輩の学徒の熱意を受け、今後の研究においてより一層邁進していく、そのような思いに至りましたことも事実です。状況が許す限りではございますが、来年の教育セミナーは対面実施となり、先生方や他の参加者と研究に関し喋々と雑談に耽ることを楽しみにしております。